

(様式第 2 号)

令和 3 年 2 月 2 2 日

令和 2 年度 経営発達支援事業評価報告書

第三者評価委員会 御中

始良市商工会  
作成者：上藪 武宗

経営発達支援事業の評価結果について、次のとおり報告します。

項目	商工会 評価	委員会 評価	商工会コメント
目標	B	B	コロナ対策支援事業を中心に、当商工会の経営発達支援事業と絡めながら、個社が多様な視点から事業の安定化そして拡大化の実現につながる支援を中心に行った。おおむね伴走型小規模事業支援推進事業を通して全般的な計画の実施は出来ているが、支援事業の効果やフォローアップ方法の改善が必要である。
a 地域の経済動向調査に関すること	A	A	年 4 回四半期毎に市内の企業の景況調査を行った。昨年と同じサンプル数で今年度も継続実施した。調査を行うことにより、売上高や経常利益等の把握を行い、事業計画策定支援や個別フォローアップに活かした。
b 経営状況の分析に関すること	B	B	確定申告データ、マル経融資推薦書のデータを主に活用した経営分析を行った。巡回指導件数と講習会の参加事業者数が当初定めた目標数値と大きな乖離があるので、セミナー告知や内容の改善が必要とされる。
c 事業計画策定支援に関すること	C	B	ネット de 記帳等の財務データ等を活用しながら、各種補助金制度や公的支援策を活用して、事業計画の策定支援を行った。 『事業計画策定セミナー』については、参加事業者数が少なく、補助金申請に繋がった事業者も目標より少なかった。今後内容の精査が必要な部分が

			<p>あるので評価減のポイントとなった。</p> <p>創業セミナーでは、受講者のうち24名が、始良市の認定創業者となった。</p>
d 事業計画策定後の実施支援に関すること	A	A	<p>コロナ関連の補助金申請者や融資相談者が例年の倍以上となったため、それに伴う補助事業の進捗状況のフォローや実績報告に関するフォロー件数等が増加した。</p> <p>また、伴走型小規模事業者支援事業を通して、各種補助金申請を行った事業所を中心に専門家とのフォローアップを行い、計画策定後からの現状分析や専門家からのアドバイスを行った。</p>
e 需要動向調査に関すること	C	C	<p>第2期経営発達支援事業計画から、アンケートの趣旨を大きく変更した。</p> <p>今年度は、『『あいらブランド』の商品開発に繋げる消費者アンケート』を実施。</p> <p>アンケート結果は、事業者への提案も含めた形式での報告書を作成したが、事業者へのフィードバックや情報提供が出来ておらず、今後長いスパンでアンケートへの取り組みの継続方法やアンケートを通しての事業者へのフォローアップの方法を具体的に考え直す必要があるため、C評価とする。</p>
f 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること	B	A	<p><u>・新商品や新サービスの開発</u></p> <p>農商工連携については、始良市産「はだか麦」を活用した商品開発に取り組み、試食会を第2回地域活性化委員会で実施した。今後は、一過性のもので終わらせるのではなく、「かご市」等で継続できるような商品づくりを継続させていく必要がある。</p> <p><u>・需要開拓支援</u></p> <p>「ブランディングセミナー」を実施。県内外の出展支援にもつながる、自社商品の魅力の掘り起こしや新しい視点から出展支援や新商品開発支援に繋がった。しかし参加事業者が目標よりも少ない結果となった。</p>

			<p>県外（東京都）出展や県内（WEB 逸品フェア・かご市フェア等）出展については、出展前の計画策定、現場でのレイアウト指導、終了後のフィードバックまでと一連の流れで経営指導を行った。</p>
g 地域経済活性化に資する取組	B	A	<p>地域の各団体で構成される地域活性化委員会を3回の計画のうち2回開催。始良市産「はだか麦」を活用した商品の試食会の開催や地域事業発展の今後の展望等について協議した。</p>
h 支援ノウハウ等の情報交換	A	A	<p>金融懇談会（12月）、毎月1回の商工観光課との定例会、毎週火曜日の指導員定例会を実施。（※7月については、新型コロナの影響により中止となった。）</p> <p>特に金融懇談会では、始良市内の金融機関の営業担当と意見交換を行い、「コロナ禍における最近の融資の取り組み方について」など支援ノウハウ等の情報交換に務めた。</p>
i 指導員の資質向上	B	B	<p>県商工会連合会、中小企業大学校が実施する支援担当者研修会参加。専門的知識を習得し、小規模事業者の売上拡大等に繋がる支援能力の向上を図った。</p> <p>今年度は、新型コロナの影響もあり資質向上が例年よりも出来なかったことから B 評価。</p>
全体報告（総合評価）	B	B	<p>目標に対しての未達事項の項目があるものの、今年度はコロナ支援に重点を置きながら、伴走型補助事業をベースに、一対一で寄り添ったオーダーメイド式の経営指導となる支援事業を実施出来ているといえる。</p> <p>講習会については、県内での実績があるエキスパート講師を選定したが、参加事業者数が少ないので、今後改善していく必要がある。</p> <p>来年度以降も個社が多様な視点から事業安定化や拡大化の実現に繋がる支援遂行に重点を</p>

		<p>置いたセミナー内容を計画している。</p> <p>今年度、第2期の経営発達支援計画の初年度であったが、端的に終わるような感覚的な支援ではなく、分析や報告書を活用した支援を行い、指導員同士での情報共有を図る体制をさらに強化する必要がある。</p> <p>また各指導員が取り組んだ、創業関係、経営革新関係、各種補助金関係の案件については、別の個社支援の場でも活かされるので、データ保存を行い、共有を図り、支援の質を高めていく。</p> <p>この経営発達支援計画については、商工会役員からの理解をさらに高め、商工会全体の組織として取り組める体制づくりが必要である。</p>
--	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※評価の目安 S：目標水準を100%以上達成した。

A：目標水準を80%以上達成した。

B：目標水準を70%以上達成した。

C：目標水準を30%以上達成した。

D：目標水準の達成度はそれ以下であった。